

授業力ブラッシュアップ研修会Ⅰ・Ⅱ

今年度の授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の改訂を踏まえ、授業改善の視点として示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業はどうあればよいかをテーマに提案授業・講義・演習を実施しました。今回は、10月に実施した中学校数学と11月に実施した小学校社会の研修会の様子を紹介いたします。

中学校 数学

数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動の在り方
～適用、発展・統合の時間を重視した授業展開を通して～

(1) 提案授業

「相似な図形」第3学年

授業者：一関市立大原中学校 教諭 南浦 元
助言者：県南教育事務所 指導主事 山本 克哉

★多様な説明の仕方を論理的に考察することを通じた、数学的な見方・考え方を高める授業展開の在り方

本時では、補助線がひいてある図から数学的な性質を読み取り、証明の方針を確認(口述)することを目指した。

相似な三角形に着目しながら見直しをもって試行錯誤し、多様な方法で証明する経験を通じて、数学的な見方・考え方の深まりを期待した。



特に、長さや線分の比を「置き換えること」の見方・考え方を深めさせたいと考えた。

★複数回の問題発見・解決の過程やそれらを振り返ることを通じた、より深い理解へとつなげる授業展開の在り方

前時では二等辺三角形を一般の三角形に置き換え、実測結果から性質を見だし、証明問題に取り組んだ。

本時では、前時と異なる証明方法で解決することや二等辺三角形と一般的な三角形を比較すること、補助線から性質を読みとることなどを通じて、多様な証明の仕方に触れ、数学的な見方・考え方が深まることを目指した。終末では図形表示アプリ「GeoGebra」を活用して、補助線を示したまま一般的な三角形を二等辺三角形にもどす様子を演示し、補助線をひく視点や証明を振り返りながら、性質のより深い理解をねらった。

(2) 講義 講師：県南教育事務所 指導主事 山本 克哉
1 論証における証明問題の指導に関わる課題

各種調査結果から、生徒の実態として証明の意義・意味の理解不足や成功体験の不足による解答記述のハードルの高さが課題として見られる。証明の記述指導にあたっては、見通しや方針の指導を重視する指導が求められている。

2 指導改善に向けて

証明の形式的な記述の指導の前に、「証明をよむ活動」や「見直しをもって試行錯誤する活動」の充実が求められる。数学的な見方・考え方を育むためには、長期的な視野で指導するとともに、その良さを実感できる成功体験が重要である。

小学校 社会

社会的事象の見方・考え方を働かせる指導の在り方
— 思考・判断・表現する学習活動の充実と教材や発問の工夫をとおして —

(1) 提案授業

「平和で豊かな暮らしを目指して産業の発展と国民生活の変化」第6学年

授業者：奥州市立水沢小学校 教諭 岩持 亜由美
助言者：奥州市教育委員会 指導主事 千葉 真

★終末場面において、本時の学びを活用させた発展的な発問を重ねることにより、将来の社会参画について多角的に思考させる授業展開の在り方

高度経済成長により生活が便利で豊かなものになったことをおさえたうえで、それとともに公害問題が発生したことを確認した。その際に、「本当にこの姿は便利で豊かと言ってよいか」を考えさせることで、児童は本時で学んだ知識を活用しながら、「本当に豊かな生活とは何か」について、自分の考えを再構成した。また、増加する公害問題の解決に取り組んだ先人たちによる努力の歴史から、未来に生きる自分たちは何を学び、今後どのように生きていけばよいか、将来の社会参画について考えた。

★効果的な資料提示を工夫し、児童の発言と共に構造的な板書へ位置づけることにより、社会的事象との関わりを可視化する授業展開の在り方

戦後日本の工業生産額の推移を示したグラフを中心資料に据え、それが導入から終末まで一単位時間を貫くような授業展開を構想



した。この中心資料に、電気製品の普及を示したグラフや、増加する公害問題を示したグラフを関連付け、日本が戦後どのように発展していったのかについて、その光と影を対比させながら板書に位置付けた。

(2) 講義 講師：奥州市教育委員会 指導主事 千葉 真
1 社会的事象の見方・考え方について

「位置や空間的な広がり」、「時期や時間の経過」、「事象や人々の相互関係」という視点で、社会的事象を捉え、社会的事象の見方・考え方を働かせる展開を構成していくことが求められている。また、普段の授業における発問や読み取り等の作業においても、これらの視点がもとになって構成されていることを意識することが大切である。

2 社会科における思考・判断・表現する学習活動について

○思考力：特色や意味を多角的に考える力

○判断力：社会との関わり方を選択・判断する力

○表現力：説明する力、議論する力

という捉えのもと、学習活動を構想すること。「対話的な活動は、それを児童が必要とするから成り立つ」という前提のもと、話し合わせる内容や方法を吟味することがポイントである。